

住民による沿道景観診断の実施手法と活用に関する研究

Measures of Community Members' Road Landscape Evaluation and Utilization of the Results

齋藤 大**・佐藤友祐***・宮本史大****

By Dai SAITO **・Yuki SATO ***・Fumihito MIYAMOTO ****

1. はじめに

平成17年に施行された景観緑三法を始め、自治体等においても、景観に関する計画・条例等が策定されている。景観法の基本理念では、「良好な景観は現在及び将来における国民共通の資産」であることを明らかにしているほか、「地域の個性を伸ばすような多様な形成を図るべき」として、地域の自然、歴史、文化、風土等によって良好な景観は多様であること等を示している。1)

また、景観行政団体の景観計画策定の過程において地域住民の意向を踏まえることを明確に規定している。競争力のある美しく個性的な北海道の実現を基本的意義として本格運用が始まったシーニックバイウェイ北海道では、沿道景観を地域住民との協働のもと創るための取り組みの一つとして、沿道景観診断が行われてきた。本論文は、これまでに実施された沿道景観診断について、実施手法、及び実施状況等で整理するとともに、景観診断結果の考察をもとに、今後の景観診断の活用について、また、地域住民と協働による沿道景観改善のあり方について考察した。

2. 沿道景観診断の実施状況

(1) 沿道景観診断の目的

2003年7月「美しい国づくり政策大綱」が制定され、現在までの社会資本整備の量的な充足と、それらを成す人工景観の質的貧困を冷静に分析したうえで、「行政の方向を美しい国づくりに向けて大きく舵を切る(前文)」と宣言し、公共事業における景観重視を鮮明に打ち出したものである。それを実現するため、美しい国づくりのための施策展開として15項目を挙げている。その内の「事業における景観形成の原則化」「地域景観の点検の促進」に鑑み、地域住民、各関係者の協力のもと、道路沿道景観診断を実施することにより、「景観に配慮した道路整備」に向けての基礎資料とし、今後活用していくことを目的としている。

* キーワーズ：シーニックバイウェイ、市民参加、景観
 ** 正員、デザイン工学修士 (社)北海道開発技術センター
 (北海道札幌市中央区南1条東2丁目11番地
 TEL011-271-3028、FAX011-271-5115)
 *** 正員、北海道開発局建設部道路計画課
 (北海道札幌市北区北1条西2丁目
 TEL011-709-2311内5366、FAX011-757-3270)
 **** 正員、(社)北海道開発技術センター(同**)

(2) 沿道景観診断の実施手法

沿道景観診断は主に3つの段階により構成されている。事前調査を含む第I段階は、既存資料の収集、診断断面の選定、地域特性、参加者構成などを考慮した上での診断シートの作成である。第II段階において診断の実施。診断は、動画・静止画などを使った室内型、バスなどに乗車し現地診断を行うフィールド型に大別できる。第III段階で診断結果の集計および分析が行われる。参加者への報告会や意見交換会を実施する場合もあり、分析結果も定量的結果にとどめる場合、具体的行動計画を示すものなど内容は多岐にわたる。(図-1)に一般的に用いられている作業手順を整理する。



図-1 作業手順フロー

(3) 沿道景観診断の実施状況

平成17年度、北海道開発局により地域住民参加型の沿道景観診断が9件実施された。(表-1)

表1 北海道内平成17年度実施沿道景観診断

路線名/実施者	区間/期日
国道231号 留萌開発建設部	(留萌市～増毛町間) 平成17年7月3日
国道278号 函館開発建設部	(函館市「道の駅」などわえさん～森町国道5号交点) 平成17年10月5日
国道5号・279号 函館開発建設部	(函館市末広町～森町石倉) 平成17年10月7日
国道36号 札幌開発建設部	(恵庭バイパス～千歳市街地間) 平成17年10月14日
国道272.335号 釧路開発建設部	(中標津町～羅臼町間) 平成17年10月16日
国道230号 札幌開発建設部	(定山溪市街地・定山溪国道) 平成17年10月17日
国道12号 札幌開発建設部	(岩見沢市～美唄市間) 平成17年10月26日
国道276号～453号 室蘭開発建設部	大滝村 平成16年10月28日
国道453号 室蘭開発建設部	杜警町 平成15年9月29日
国道453号 室蘭開発建設部	杜警町 平成17年12月1日
国道230号 室蘭開発建設部	虻田町・洞爺村 平成17年11月28日

国道453号、壮瞥町では平成15年度と同17年に2度開催されており、期間内に実施された果樹園の看板統一や美化活動に対し68%が良くなったと回答(図-2)するなど具体的な活動に対する評価が得られている。



図-2 景観印象評価

3. ケーススタディー

室蘭開発建設部および釧路開発建設部実施の沿道景観診断をケーススタディーとして、診断方法の詳細、診断結果とその利用などについて述べる。

(1) 室蘭：室内型診断

a) 調査手法

調査期間は、平成17年10月6日から同18年3月10日まで。範囲は、景観診断：一般国道230号(洞爺村・虻田町)、事後診断：一般国道453号(壮瞥町滝之町)。対象区間を図-2に示す。



図-3 診断対象路線図

調査にあたっては、特に道路内部からの理想的な連続した動(シークエンス)景観を演出することが大切と考え、道路の線形、周辺の地形を活かして北海道の大自然を感じさせる道路内部景観診断を実施し、景観形成に取り組むものとした。

診断にあたっては、対象路線の代表的景域を分類、診断断面を抽出し①全体印象について、②道路景観(各景観構成要素)について、③最も大切にすべき要素、④地域の独自性を踏まえ、沿道で配慮すべきこと、⑤その他の5項目からなる調査シートを作成した。なお、回答は3段階評価および自由記入とした。(図-4)

Q1	良い風景である	良くも悪くもない 普通の風景である	良くない風景である 残念な風景である	
Q2	景観	山並みや遠方の風景	良い...普通...悪い	残念だと感じるようや、これから別格すべきだと感じる点
Q3	景観	農地	良い...普通...悪い	
	沿道利用	沿道の樹木など	良い...普通...悪い	
	沿道利用	店舗・住宅・倉庫など	良い...普通...悪い	
	沿道利用	看板	良い...普通...悪い	
	沿道利用	電柱・電線	良い...普通...悪い	
	沿道利用	道路(区画線・歩道)	良い...普通...悪い	
	沿道利用	歩道	良い...普通...悪い	
	沿道利用	交通規制標識	良い...普通...悪い	
	沿道利用	案内標識・情報標	良い...普通...悪い	
	沿道利用	視認性確保(矢印標)	良い...普通...悪い	
Q4	この景観で最も大切にすべき要素は何だと思いますか			
Q5	地域の個性・個性を踏まえ、沿道で配慮すべきことは何だと思いますか			
Q6	その他お気づきの点をお書きください			

図-4 調査シート(抜粋)

b) 調査結果

各景域において、印象要因が明らかになった。羊蹄山・ニセコ連山が遠望できる広大な農地景観において、良い印象を与える要因として、背景となる雄大な山並みや農地の視界的な広がり、また、良くない印象を与える要因として、利用されていない店舗や適切に維持管理されていない看板・照明灯などが上げられた。

視覚的に広がりのある農地景観では、約36%が良くないとした電柱・電線は、山間景観では樹木の中に隠れており眺望阻害要因になっていないため、良くないとの評価が約8%に止まっており(図-5)、景域の違いや、形状・設置方法などによって意見の分かれた景観要素(図-6)が抽出され、諸条件により印象に差異が生じることが明らかになった。

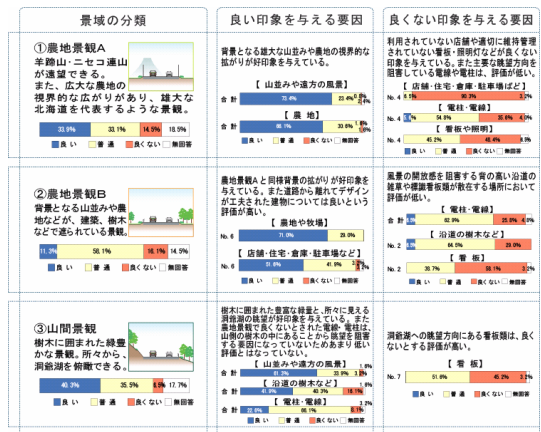


図-5 景域ごとの印象

景域の違いや、形状・設置方法などによって意見の分かれた景観要素

店舗・住宅・倉庫など	沿道の樹木など	看板・電柱・電線など
<p>良い No.3</p> <p>▲デザインに工夫をしている建物は高評価 沿道から離れて建てていて境界の妨げにならない場所では評価が高くなるようにデザインに工夫をしている建物は評価が高い。</p>	<p>良くない No.2</p> <p>▲境界が開けている場所では高評価 背の高い雑草が生い茂って境界の利かない場所では評価が低く、農地など境界に広がりがある場所では評価が高い。</p>	<p>良くない No.2</p> <p>▲看板「良くない」評価 不要な看板や散在している種識や看板類は低評価。</p>
<p>良くない No.4</p> <p>▲無用なデザインに施されている建物は低評価 沿道から離れていても、使用されずに放置されている建物は評価が低い。</p>	<p>良い No.3</p> <p>▲地域住民による道路美化活動は高評価 沿道から離れていても、使用されずに放置されている場所は評価が高い。</p>	<p>良い No.3</p> <p>▲看板「良い」評価 シンプルなもの、デザインされた看板は比較的高評価。</p>
<p>良くない No.5</p> <p>▲建物統一感が図られない市街地では「良くない」とする意見が多い。</p>	<p>良い No.9</p> <p>▲維持管理されたものは高評価 消滅湖畔の整備された植栽は、評価が高い。</p>	<p>良くない No.5</p> <p>▲電柱・電線「良くない」評価 眺望を阻害する位置に設置されている市街地では低評価。</p>
<p>良くない No.12</p>	<p>良い No.9</p>	<p>良い No.7</p> <p>▲電柱・電線「良い」評価 樹木の中に設置されている場合や色々に塗装されている場合は比較的高評価。</p>

図-6 結果概要

室内型診断は、参加者への負担を考慮し幅広く印象(傾向)を聴取するには有効な手段である。しかし、生活者としての視点のみで語られることが多く「観光

という視点で客観的な「外の目診断」（表-2）を実施することは困難である。本調査では観光客の代わりに旅行業者への意見ヒアリングを平行して実施している。外の目診断（ヒアリング）結果（表-3）は、結果報告懇談会において発表され、景観改善に関するGCシミュレーション画像なども使用しながら、より具体的な意見聴取を行っている点で評価できる。

表-2 外の目診断概要

■ヒアリング対象	旅行代理店(1社)、地元バス会社(2社)、地元タクシー会社(2社)
■ヒアリング内容	はじめに道路景観診断の主旨と内容の説明を行った後、路線図、写真資料を基にヒアリングを行った。
■主な設問	<ul style="list-style-type: none"> 対象路線を走ったときの印象は。 道路景観として印象に残っていること。 良いところ、良くないところはどこですか。 風景についてお客様によくする話題。 もっと美しく快適な道路とするにはどうすればよいか。等

表-3 外の目診断結果(抜粋)

路線全体に対する意見・まとめ	
【道路付属物・沿道の看板等について】	
旅)	歩道の防護柵、ガードレール等の色彩を統一しては。
旅)バ)	視線誘導(矢羽根)や縦型の信号機等は北海道らしいものとして見られる。
タ)	防雪柵やガードレールは必要なものだし、気にならない。
旅)	観光バスは視点が高く、のぼりは気にならない。
バ)	景観に優れたところでは電線がないほうが写真を撮るときにいい。
タ)	地名を書いた看板が撮りたい写真の背景に入るように考えて立てて欲しい。
バ)	三階滝など、国道から入らずに視点が確保できるようになればいい。
【花による魅力アップについて】	
旅)タ)	花壇整備、花をあしらうことにより魅力をアップしては。
旅)	沿線住民の協力で草花のプランターを置く等の動きができるといい。
タ)	休耕地を利用して花を植える等すれば、観光客が喜ぶと思う。ただしスケール感が無いと魅力が薄いのでは。
【おもてなしの意識等について】	
旅)	来た人に喜んでもらうという住民の意識が重要。
旅)	団体客を念頭においた沿道で体験できる何かが欲しい。
バ)	体験型のおもてなしが喜ばれた。(女子高生のリンゴ狩り)
タ)	噴火直後の「頑張ろう!」という意識がなくなりつつある。
タ)	日本人観光客が減った洞爺湖では、韓国や台湾からの観光客が増えたが、外国人観光客に対する対応が雑に感じる。
バ)	洞爺湖は「学生さん、台湾観光客の宿」という印象になった
バ)	利便性が向上し、洞爺は通過点となってしまった。
旅):旅行代理店 巴):バス会社 タ):タクシー会社	

(2) 釧路：フィールド型診断

a) 調査手法

平成17年度に、釧路開発建設部が中標津空港から羅臼にいたる区間を、世界自然遺産である知床へのアプローチとして望ましい景観にしていこうとすることを目的に沿道景観診断を実施した。シーニックバイウェイ活動の一環であり、参加者が先進事例の視察などを経験し予備知識があったことなどから独自の方法にて実施した。対象区間のドライブ環境をより魅力的にしていこうと、活用する資源や対策する課題などを住民が調査し、結果から対象区間における具体的な取り組みや展開の方向性について検討するために、参加者を4グループに分け、指定された範囲内をジャンボタクシーにより自由に移動し、景観が良いと思うところ、気になるところで写真撮影した。(図-7)

調査結果のとりまとめにあたっては参加者意見を集約した景観マップ(含:位置、特徴や魅力、アプロー

チ)を作成し、既存資源の魅力を活かした景観づくりの方向性を示した。

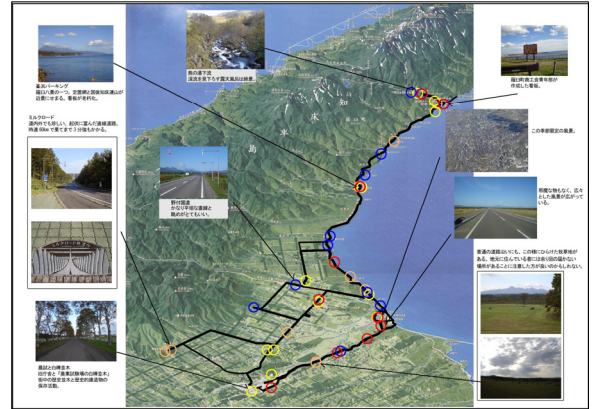


図-7 調査路線および対象

b) 調査結果

調査グループ毎の自由行動による写真撮影から代表的景観対象および視点場の抽出を行った。

代表的な景観対象(表-3)は、武佐岳、国後島・オホーツク海、知床連山で、各グループで撮影された写真総数のうち半数以上が、この三箇所を撮影対象としている。その他の景観対象としては、個別施設(純の番屋、道の駅、開陽台等)についてのものである。

表-3 調査路線および撮影対象

撮影対象	景観診断グループ				計	比率
	A	B	C	D		
武佐岳	17	12	9	18	56	24.9%
国後島、オホーツク海	6	12	4	12	34	15.1%
知床連山	10	8	3	5	26	11.6%
その他	23	34	25	27	109	48.4%
各グループ撮影写真枚数	56	66	41	62	225	—

視点場として認識度の高かったのは羅臼国後展望塔、伊茶仁海岸、熊の湯付近、駐車帯などでジャンボタクシーの駐停車が可能な箇所であった。各視点場について、その評価コメントから求められる景観イメージを抽出した。(表-4)

表-4 視点場ごとの景観イメージ

視点場	代表的なコメント	コメントからの景観イメージ
1 羅臼国後展望塔	・羅臼国後展望台からの風景、・展望台よりの国後島、・羅臼岳	風景に関するコメントがほとんどであり、景観イメージとしては良好である。
2 伊茶仁海岸(ニコライ亭付近)	・標津の町はずれの風景、・危険箇所、・海はきれい、・駐車場の侵食、・ゴミ多し	海はきれいであるが、海岸侵食が進み、危険箇所、ゴミが多いとコメントが多く景観としてはマイナスイメージである。
3 茶志骨駐車帯	・パーキングからの風景、・標津、中標津のパーキングより、・パノラマ風に山を中心にして	風景に関するコメントがほとんどであり、景観イメージとしては良好である。
4 熊の湯付近	・川の流が美しい、・木々がうっそうとして、・すごい、・滝	風景に関するコメントがほとんどであり、景観イメージとしては良好である。
5 峯浜パーキング	・パーキングより見える景色がきれい、・すごい、・看板がぼろい	風景に関するコメントがほとんどであり、景観イメージとしては良好だが、設置看板のマイナスイメージあり。
6 川北パーキング	・すごい、・ゴミはだめ、・パーキングのゴミ、・ゴミ多し	風景は良いものの、ゴミが散乱しているとのコメントが多く、イメージを損ねている。

それぞれで景観イメージのプラスマイナスの評価がはっきりリ分かれている。

これら良好な評価を得ている景観イメージは、・風景の広がりがある（視線障害要因が少ない）、・遠望に雄大な自然を見られる、・自然がそのまま、手つかずのかたちで残っていること、・ゴミなどがなく周辺整備が良好であることなどである。

一方、マイナスイメージとなる条件は、・ゴミ、・海岸侵食がすすみ特に対策が行われていない、・電柱電線が煩雑で視線を障害するなどであり、視点場の周辺整備、特にゴミが放置されている場所においては景観イメージが悪く、今後の周辺整備を考えていく上で、重要な要素となる。

対象区間での各景観の評価は、もともと広告看板、無駄な施設等が少ない地域であることから、基本的に良好である。今後の方向性、課題等は、各視点場、および対象場の広域的な整備、改善、保全であると考えられる。（図-8）

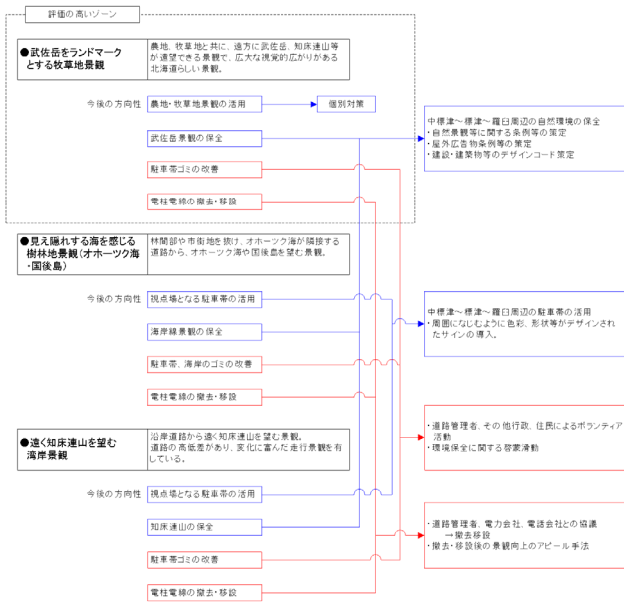


図-8 診断結果による方向性

4. 考察

室内型、フィールド型のそれぞれの沿道景観診断について考察する。

室内型は、診断断面をあらかじめ設定できるので、同一地点における時系列変化の診断など実施者の目的に合わせ効果的な診断が実施でき、調査地点の全体的な印象の評価、景観要素の評価を定量的に分析する場合に効果的である。また、診断時間の設定に自由度があり、必ずしも診断者が一同に介し実施する必要もないので、汎用性が高い。

一方、フィールド型では、視点場として利用される（ている）場所、景観対象や要素の見られ頻度、視点場からの景観に対する評価、視点場の活用の方向性や改善点などが結果として導き出される。自ら自由に移動する行為により交通アクセス環境も含めた代表的な

視点場が明らかになり、景観の方向性が抽出されやすい。（表-2）また、グループ構成によっては、地域住民による「中の目診断」と、地域外住民や観光関係者などによる客観的な「外の目診断」が同時に行えるなどのメリットがある。さらに診断方針、テーマの設定の自由度が高いために、地域の魅力探しなどの地域資源調査、診断者が直接観光客の声を聞くヒアリング調査などとも組み合わせることができる。

今後、シーニックバイウェイ活動における沿道景観診断では、「美しい景観づくり」「活力ある地域づくり」「魅力ある観光空間づくり」という基本方針のもと、対象地域の特性、主な診断者である地域住民の沿道景観に対する認識度などを事前に把握し、地域活動団体が主体となった取組みにつながるよう状況に合わせた診断方法の選定、設計が不可欠であると考えられる。

表-2 調査概要の比較

	室内型診断	フィールド型診断
調査区間	特定区間	発地と着地の間全区間
調査地点	行政が事前に選定	参加住民が現場で選定
調査対象	選定した断面から見える景観構成要素	地域資源、景観障害要素、視点場
調査項目	景観の印象に影響している主な対象や、景観構成要素それぞれに対する評価	景観の印象に影響している主な要素や課題、それらを眺める視点場の位置と状況写真
調査方法	参加者が調査地点の現地状況、または調査地点の映像を見て、調査断項目に対する設問への回答	参加者が現地で地域資源・景観障害要素を探して景観写真と撮影地点を記録し、活用方法や改善方法を記入
調査結果	・調査地点の全体的な印象の評価 ・調査地点の主な景観対象 ・調査地点で選定した景観要素の評価	・視点場として利用される（ている）場所 ・景観対象や要素の見られ頻度 ・視点場からの景観に対する評価 ・視点場の活用の方向性や改善点

5. おわりに

道路景観に対する地域住民の関心は急速に増している。観光立国行動計画においても、日本の魅力・地域の魅力を確立するために、良好な景観の形成を推進して行くことが主要事項の一つとして示されており、道路景観の改善は、道路行政にとって重要な課題となっている。

地域住民と行政の協働による地域固有景観形成を推進するにあたり、導入としての沿道景観診断の有効性は認識しつつ、具体的行動に移すための長期的な側面支援を充実させるべきでると考える。

参考文献

- 1) 北海道におけるシーニックバイウェイ制度導入モデル検討委員会：北海道におけるシーニックバイウェイ制度導入モデル検討委員会報告書，2004年